

東京 IPO 特別コラム

2018年1月9日 Vol.108

2日連続ストップ高銘柄は—昨年のIPO銘柄

新年早々からストップ高が続く銘柄として2016年6月にマザーズ市場にIPOしたバーチャレクスHD(6193)が関心を呼んでいます。本コラムでも取り上げたことのある銘柄ですが、同社株はIPO直後の高値1986円から昨年4月安値699円まで鳴かず飛ばずの状態で見送られてきたので、このところの様変わりへの人気は異色です。同社が人気化した背景はブロックチェーン関連プロジェクトを受注したことによると推察されますが、書店に並ぶ書籍から今年のテーマが、同社が掲げているRPA(ロボットによる業務効率化)でもあり、テーマ株の一翼を担っているものではないかと推察されます。

こうしたテーマ性はIPOしたばかりの企業に対する高い評価を与える結果となることは皆さんもよくご理解されていると思います。結果として経常利益が数億円程度の小さな会社も時価総額が100億円を超えるような評価につながる訳です。同社株は発行済み株式数が293万7000株で本日のストップ高でもまだ時価総額は38.7億円。先行投資で経常利益は1.3億円の規模にとどまっていますが、経常利益4億円程度までを折り込んだ評価だと言えます。好需給に支えられての2日連続ストップ高ではありますが、やや過熱気味な状況になりつつあります。

こうした直近IPO銘柄にはテーマ性を備えてはいるものの、株価が調整傾向を見せているテーマ株を見出すことができます。株価の低迷が短期の売りを誘うのと同時に買い意欲も活発化して出来高が増加してくることがポイントと考えられます。今回は2016年のIPO銘柄で上場後の高値から調整傾向を脱しつつある5銘柄をピックアップしてみました。

①シルバーエッグテクノロジー(3961)9月27日 マザーズ 公開価格900円
初値2622円 高値4620円 安値1971円 時価2170円
AIを用いたWEB上のマーケティング支援ツールを提供。公開後の高値から57%下落して下げ止まりの動き。

②バロックジャパン(3548)11月1日 東証1部 公開価格2000円
初値1900円 高値1903円 安値911円 時価1053円
女性向け衣料品販売、服飾雑貨品会社。上場後の業績停滞を反映して株価下落歩調。高値から52%下落して下げ止まり。来期からの業績復調に期待。

③岐阜造園(1438)11月1日 名証2部 公開価格1150円
初値1191円 高値1551円 安値1012円 時価1285円
日本で唯一の上場造園専業会社。ランドスケープ事業の拡大に期待。関東圏への進出を

東京 IPO 特別コラム

計画。地味な印象の銘柄で株価変動は乏しいがPER、PBR、配当利回りなど割安感。

④JMC（5704）11月29日 マザーズ 公開価格960円
初値1816円 高値3240円 安値980円 時価1071円
3Dプリンタによる試作品製作会社。自動車業界向け需要の読み間違いで前期は業績停滞。今期は回復期待。高値から7割下落して底打ちの動き。

⑤TBCスカット（3974）12月27日 JQ 公開価格1400円
初値4500円 高値4670円 安値1344円 時価1533円
美容サロン向け顧客管理システム、集客支援アプリ、老人ホーム経営も手掛ける。高値から7割の調整を経て出直り傾向。同業他社のM&Aでスケールアップ。

（東京 IPO コラムニスト 松尾範久）